

專門基礎 分野

学科目 (単元)	解剖生理学 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	医学の導入である解剖学と関連の大きな細胞と組織、生理学と関連の大きな恒常性の総論。 運動器系である骨学と筋学における構造と機能、神経系における構造と機能である感覚情報の受容と処理、処理した情報による運動の発現における知識を身につけ、看護の基礎となる人体の構造と機能を理解する。						
到達目標	・解剖生理学の概要を話すことができる。(1・2・3) ・運動器である骨格や筋の類別、個々の骨や筋の特徴と運動の説明ができる。 (4・5・6・7・8) ・神経系である中枢神経、末梢神経、伝導路・感覚器の説明ができる。(9・10・11・12・13) ・最大の感覚器である皮膚および、体温コントロールに関する説明ができる。(14)						
授業計画	1. 解剖生理学のための基礎知識 ① (ガイダンス) 2. 解剖生理学のための基礎知識 ② (細胞) 3. 解剖生理学のための基礎知識 ③ (組織・体液・ホメオスタシス) 4. 体の支持と運動 ① (骨格系) 5. 体の支持と運動 ② (骨格系) 6. 体の支持と運動 ③ (筋系) 7. 体の支持と運動 ④ (筋系) 8. 体の支持と運動 ⑤ (筋系：運動) 9. 情報の受容と処理 ① (神経系) 10. 情報の受容と処理 ② (神経系) 11. 情報の受容と処理 ③ (神経系) 12. 情報の受容と処理 ④ (神経系) 13. 情報の受容と処理 ⑤ (感覚器系) 14. 身体機能の防御と適応 ① (皮膚・体温) 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の助言	基礎看護学や病態治療論および臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。 人間の体の構造や機能を知ることは、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです、 復習をしっかりと行い着実に知識として身に修めてください。 講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。						
テキスト 参考書	テキスト 系看 専門基礎分野 人体の構造と理解 [1] 解剖生理学 医学書院 系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院 参考書 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社						
方法 評価	筆記試験						

学科目 (単元)	解剖生理学Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	前期
目的	循環器である心臓と脈管である動脈・静脈・リンパの構造と機能の違い、呼吸器系における構造と機能であるガス交換のメカニズム、全身を循環する血液と免疫の関係、消化器系における構造と機能である栄養の消化と吸収に関する知識を身につけ、看護の基礎となる人体について理解する。						
到達目標	・循環器のポンプである心臓、脈管である動脈・静脈・リンパの違いについて説明ができる。(1・2・3・4・5) ・血液および免疫について基本的な事の説明ができる。(6・7) ・呼吸器系である器官の類別、各器官の機能についての説明ができる。(8・9・10) ・消化器系である器官の類別、各器官の機能についての説明ができる。(11・12・13・14)						
授業計画	1. 血液の循環とその調節 ① (心臓の構造) 2. 血液の循環とその調節 ② (心臓の構造) 3. 血液の循環とその調節 ③ (心臓の機能) 4. 血液の循環とその調節 ④ (動脈・静脈・リンパの構造) 5. 血液の循環とその調節 ⑤ (動脈・静脈・リンパの機能) 6. 身体機能の防御と適応 ② (免疫) 7. 呼吸と血液のはたらき ① (血液) 8. 呼吸と血液のはたらき ② (呼吸器系) 9. 呼吸と血液のはたらき ③ (呼吸器系) 10. 呼吸と血液のはたらき ④ (呼吸器系) 11. 栄養の消化と吸収 ① (消化器系) 12. 栄養の消化と吸収 ② (消化器系) 13. 栄養の消化と吸収 ③ (消化器系) 14. 栄養の消化と吸収 ④ (消化器系) 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の助言	基礎看護学や病態治療論および臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。 人間の体の構造や機能を知ることが、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです。復習をしっかりと行い着実に知識として身に修めてください。 講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。						
テキスト 参考書	テキスト 系看 専門基礎分野 人体の構造と理解 [1] 解剖生理学 医学書院 系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院 参考書 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社						
方法 評価	筆記試験						

学科目 (単元)	解剖生理学Ⅲ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
授業の目的	恒常性を維持するために機能する泌尿器系と内臓機能の調節をする器官の構造と機能。発生に関する構造である生殖器と発生から成長を経て老化に至るメカニズムと機能の変化についての知識を身につけ、看護の基礎となる人体について理解する。 解剖見学により、今まで机上で学んだ知識をより確実なものにする。						
到達目標	1. 泌尿器系である器官の類別、各器官の機能および恒常性の説明ができる。(1・2・3・4) 2. 自律性調節である自律神経系とホルモンの機能と恒常性の説明ができる。(5・6・7・8) 3. 人体の発生に関する構造と発生の過程、成長を経て老化の機能の変化とそれに伴う身体変化について説明ができる。(9・10・11・12) 4. 見学により解剖生理学で学んだことを集約して説明することが出来る。(13・14)						
授業計画	1. 体液の調節と尿の生成 ① (泌尿器系) 2. 体液の調節と尿の生成 ② (泌尿器系) 3. 体液の調節と尿の生成 ③ (泌尿器系) 4. 体液の調節と尿の生成 ④ (泌尿器系) 5. 内臓機能の調節 ① (自律性調節) 6. 内臓機能の調節 ② (自律性調節) 7. 内臓機能の調節 ③ (自律性調節) 8. 内臓機能の調節 ④ (自律性調節) 9. 生殖・発生と老化 ① (生殖器系) 10. 生殖・発生と老化 ② (生殖器系) 11. 生殖・発生と老化 ③ (発生・胎児) 12. 生殖・発生と老化 ④ (成長・老化) 13-14. 解剖見学 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の助言	基礎看護学や病態治療論および臨床の医療行為と関連させながら授業をすすめます。 人間の体の構造や機能を知ることは、医療をすすめて行く上で必要不可欠なことです。 復習をしっかり行い着実に知識として身に修めてください。 講義内容の理解をすすめるために、確認テストをします。						
テキスト 参考書	テキスト 系看 専門基礎分野 人体の構造と理解 [1] 解剖生理学 医学書院 系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院 参考書 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	人体形態機能学	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30 時間	2年	全期
目的	私たちが健康に生活するためには、体内の細胞や組織、器官が正常な形や働きを保ち、体内環境が一定に保たれること、すなわち「恒常性の維持」が大切である。この講義では、恒常性を維持するための仕組みを理解し、それが破綻することで起こる病態（体の異常な状態や反応）の成り立ちを学ぶ。また、局所的な病態が全身に及ぼす影響について考えるとともに、疾病（明確に診断される病気）に対する治療や看護の重要性についても理解を深めることを目指す。 日常生活行動はすべてからだの働きの上に成り立っている。演習を通して、体内の環境が保たれていることで日常生活行動が支障なく行えることを学ぶ。						
到達 目標	・各組織（器官）がどのように連携して恒常性の維持に貢献しているかを総合的に理解する。 ・からだの働きと日常生活行動との関係性を説明する。						
授業 計画	1. 体液とその循環（水分調節） 2. 体液とその循環（血圧調節）① 3. 体液とその循環（血圧調節）② 4. 内部環境の恒常性の維持 ①（酸素と二酸化炭素の恒常性、血糖の恒常性） 5. 内部環境の恒常性の維持 ②（水素イオン濃度の恒常性（酸・塩基平衡の維持）、体温の恒常性） 6. 調節機構 ①（神経性調節（自律神経・ストレス）） 7. 調節機構 ②（液性調節（ホルモン）） 8. 脳・神経系①（神経細胞と伝達） 9. 脳・神経系②（運動機能、伝導路） 10. 人体に影響を与える日常生活行動を見出し、検証方法を立案する 11. } 計画立案した検証方法を実践し、事実を確かめる 12. } 事実から分析を行う 13. } 発表会 14. } 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育 方法	講義 演習						
履修 上の 助言	解剖生理学と関連づけてヒトの体のしくみを総合的に学ぶ思考を身につけていきましょう。 解剖生理学の学習ノートと照らし合せながら、受講することを勧めます。						
参考 書	テキスト PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 生理学 羊土社 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社 参考書 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院 参考書 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院						
評価 方法	筆記試験・課題への取り組み状況						

学科目 (単元)	微生物と感染症	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	・この講義は、病原体と宿主との相互関係によって生じる感染症を、病原体および宿主の両面から考察し、理解を深めることを目的とする。 ・感染症はどの医療現場にも深く根付いている問題であり、医療従事者になるからには、感染症を避けてはとおれない。感染症に対する正しい知識と判断力を養い、感染症の予防、治療に貢献しうる十分な基礎を養う。また、看護師が感染対策にどのようにかかわることができるかについて考える。						
到達目標	・微生物の特徴と分類を理解する。 ・ヒトに重要な影響を与える微生物について理解する。 ・各種病原微生物とその感染症の特徴を説明する。 ・感染症に対する正しい知識と判断力を養い、予防と治療について説明する。						
授業計画	【 微生物 】 12 時間 1. 微生物学の歴史・総論（細菌・ウイルス・真菌・原虫） 2. 滅菌・消毒法・化学療法 3. 病原細菌 4. 病原ウイルス（DNA ウイルス・RNA ウイルス） 5. マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・真菌・原虫 6. まとめ 【 感染症 】 16 時間 7. 感染症総論①（感染症とは何か） 8. 感染症総論②（感染症の成立と免疫） 9. 感染症の病態生理 10. 感染症の検査と診断、治療の流れ 11. 感染症各論① 12. 感染症各論② 13. 感染症各論③ 14. 予防接種 15. 学習時間あり・単位認定試験						
方法 教育	講義						
助言 履修上の	病原体である微生物の知識は、感染症の学習に必要です。予習・復習を行い、理解をすすめてください。 感染症は予防が可能な疾患です。医療従事者として正しい予防行動をするためにも、微生物の講義内容を復習し、授業に臨んでください。						
テキスト 参考書	系看 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 3 微生物学 医学書院 系看 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 2 病態生理学 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学 1 1 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床栄養代謝学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	近年、様々な職種のメディカルスタッフが、チームを組んで効率よく栄養管理を行うために、多くの施設が「栄養サポートチーム (NST)」を設立している。適切な栄養管理は、薬物療法と同様に、疾病の予防・治療に役立つと考えられているため、NST の一員である看護師にも、栄養管理業務の重要な役割が求められている。従って、本科目では、基礎栄養の分野から応用・臨床栄養の分野に至るまで幅広い知識を習得し、栄養管理に役立てることを目的とする。						
到達目標	・ 栄養素の種類と食品群について説明する。 ・ 生体に必要な栄養と食物の消化・吸収・代謝を理解する。 ・ 生体における栄養素のはたらきと食物の消化・吸収・代謝を説明する。 ・ 各ライフステージに必要な栄養管理について理解する。 ・ 栄養状態を評価する方法を説明 (列挙) する。 ・ 食事療法・治療食について理解する。 ・ 患者の栄養についてアセスメントを行う。						
授業計画	1. 栄養素の種類と食品群 2. 消化・吸収・代謝 3. 糖 質 4. たんぱく質 5. 脂 質 6. ビタミンとミネラル 7. エネルギー代謝と消費量 8. 栄養状態の評価・判定 9. 栄養ケアマネジメント・栄養サポートチーム 10. ライフステージと栄養 (乳幼児学・学童期・思春期) 11. ライフステージと栄養 (成人・妊産婦、・高齢者) 12. 病態別栄養法 13. 病院食 14. 栄養指導 (簡易体験) 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義と食事調査や栄養指導の簡易体験						
履修上の助言	前半の講義では栄養素の働きを学び、後半の講義では疾病時の食事療法、治療食の成り立ちを学習し、栄養指導の実際を学びます。 講義の授業は予習復習をして知識の習得に励んでください。						
参考文献	系統看護学講座 日本食品成分表 2025 糖尿病食事療法のための食品交換表		栄養学 八訂	医学書院 医歯薬出版 日本糖尿病学会・文光堂			
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	臨床薬理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	- 臨床における薬物治療を念頭に薬物の作用・効果を学ぶ。 - 看護師が関与する可能性のある医薬品による医療事故と防止対策について意識づける。 - 国家試験の出題傾向を押さえて理解する。						
到達目標	- 薬物に対する基礎的事項を説明する。 - 主な疾患について病態と薬物の作用、患者に及ぼす影響を関連づけて説明する。 - 看護師が関与する可能性のある医薬品について医療事故を予測し、防止対策を説明する。						
授業計画	- 総論 薬の性質・作用点・投与経路 - 総論 薬物動態・薬物に影響する因子 - 総論 薬物依存・相互作用・副作用 - 総論 薬の管理 - 各論 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬 - 各論 抗がん剤 - 各論 免疫抑制剤・ワクチン・抗アレルギー薬 - 各論 NSAID s ・副腎皮質ステロイド・片頭痛治療薬 - 末梢神経治療に作用する薬物 - 中枢神経に作用する薬物 - 心臓、血管系に作用する薬物 ① - 心臓、血管系に作用する薬物 ② - 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 - 物質代謝に作用する薬物・まとめ - 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の助言	薬物の種類、薬理作用を丸暗記するのではなく、病態、薬物の特徴、投与される患者側の要因など、ポイントをしっかりと捉えることが重要である。						
参考文献	系統看護学講座 薬理学 医学書院 今日の治療薬 2025 南江堂						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病理学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	後期
目的	病理学は、「病気」のなりたちを学ぶ学問である。ヒトに発生する全ての疾患は、病理学総論で扱う項目のいずれかの病態を示すことから、病理学総論をマスターすることは、全ての疾患の本質を理解する上での基礎であり、極めて重要である。 本講義では、14 コマにわたる病理学総論各項目について、高学年時に学ぶことになる疾患各論をより深く理解できることを目的とする。						
到達目標	・病気の発症メカニズムを理解する。 ・病理学的用語を理解し、正しく使う。						
授業計画	1. 病理学とは、病気の原因（内因と外因） 2. 細胞・組織とその傷害、再生と修復 3. 循環障害 1 4. 循環障害 2 5. 炎症 6. 感染症 7. 免疫 8. アレルギー 9. 代謝障害 1 10. 代謝障害 2 11. 先天異常、新生児の病理 12. 老化と老年病、生命の危機 13. 腫瘍 1 14. 腫瘍 2 15. 単位認定試験						
教育方法	PC を使って、視覚的にも理解しやすい授業を行う。						
履修上の助言	病理学とは、実際に病気になった患者の身体に生じている変化を、細胞・組織・臓器の各レベルにおいて、肉眼像、顕微鏡像を通じて学ぶ学問領域である。身体に起きている病的変化を理解するためには、人体の正常構造を理解している必要がある。これまでに学んだ解剖生理学が苦手だった学生は、病理学の講義と並行し、解剖生理学を勉強していくことが病理学総論の理解につながる。さらに、病理学は難しい医学用語が多く、苦手意識を持つ学生も少なくない。病理学の重要性については、病院実習で患者様を受け持った際に改めて気づく学生が多く見られるが、後から勉強するのは時間的にも困難となる。「病気」を理解する上で最も重要な科目であることから、授業を良く聞き、基本的な知識をしっかりと身につけることで、2 年生、3 年生で学ぶ全ての科目が理解し易くなる。講義前にはできるだけ教科書を読んできて頂きたい。						
テキスト 参考書	講師のオリジナルプリント カラーで学べる病理学 ヌーベルヒロカリ 教科書に付属している「病理学・整理ノート」を適宜使用する。 ※参考図書 系看 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病理学 医学書院						
方法評価	試験：記述式、選択問題、○×問題など、国家試験を考慮した問題で評価する。						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅰ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	呼吸器・循環器・消化器疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。						
到達目標	【呼吸器】 - 呼吸器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 - 知識を看護アセスメントに活用する。 【循環器】 - 循環器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 - 知識を看護アセスメントに活用する。 【消化器】 - 消化器疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 - 知識を看護アセスメントに活用する。						
授業計画	【呼吸器：8 時間】 1. 呼吸器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 呼吸器疾患の診断と治療①（呼吸不全、感染による気道・肺の炎症など） 3. 呼吸器疾患の診断と治療②（気管支喘息、肺の腫瘍、結核など） 4. 呼吸器疾患の診断と治療③（呼吸不全の障害による循環器機能への影響など） 【循環器：10 時間】 1. 循環器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 血圧異常、大動脈・静脈疾患の診断と治療 3. 虚血性心疾患の診断と治療 4. 不整脈・心不全・弁膜症の診断と治療 ① 5. 不整脈・心不全・弁膜症の診断と治療 ② 【消化器：10 時間】 1. 消化器の構造と機能、症状と病態生理、検査 2. 上部消化管疾患の診断と治療（食道、胃・十二指腸の炎症と腫瘍など） 3. 下部消化管疾患の診断と治療（小腸・大腸の炎症と腫瘍、肛門疾患など） 4. 肝疾患の診断と治療 5. 胆嚢（胆管）・膵臓疾患の診断と治療 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
履修上の助言	各疾患の病態理解、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。解剖生理学の復習を必ず行ったうえで講義に臨み、知識の修得に励んでください。						
参考文献	系統看護学講座	呼吸器	医学書院				
	系統看護学講座	循環器	医学書院				
	系統看護学講座	消化器	医学書院				
	系統看護学講座	病態生理	医学書院				
	看護がみえる Vol. 3	フィジカルアセスメント	メディックメディア				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	1 年	全期
目的	・運動器・脳神経疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。 ・リハビリテーションの概要と基本的理念について学ぶ。 また、運動が身体に及ぼす影響や障害と評価、障害に応じたリハビリテーションを理解する。						
到達目標	【運動器】【脳・神経】 ・運動器疾患・脳神経疾患の病態生理と検査・診断・治療について説明する。 ・得られた知識を看護アセスメントに活用する。 【リハビリテーション】 ・リハビリテーションの概念・歴史、障害レベルについて説明する。 ・廃用症候群、脳血管障害、嚥下障害、脊髄損傷のある対象への基本的なアプローチを述べる。 ・ROM・MMT の目的を理解し、正しい方法で測定する。 ・脳血管障害にある対象の身体的特徴を踏まえ、ポジショニングができる。						
授業計画	【運動器：8時間】 1. 運動器疾患の診断・検査と治療・処置 2. 疾患の理解と治療①（外傷性の運動器疾患：骨折・脱臼・捻挫） 3. 疾患の理解と治療②（骨腫瘍・神経の損傷：脊髄損傷・末梢神経損傷） 4. 疾患の理解と治療③（骨・関節の炎症性疾患：感染症・変形性関節症、 脊椎疾患：脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア） 【脳・神経：10時間】 1. 脳神経機能障害の主な症状と病態生理 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解と治療①（脳疾患：クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳腫瘍） 4. 疾患の理解と治療②（脊髄・筋・末梢神経疾患：脊髄炎・脊髄腫瘍・ギランバレー症候群） 5. 疾患の理解と治療③（脱髄疾患・変性疾患：多発性硬化症・パーキンソン病・ 脊髄小脳変性症） 【リハビリテーション医療：6時間】 1. リハビリテーション概論 （リハビリテーション医学の歴史の変遷、障害レベルとその基本的アプローチ） 2. 生活機能障害とリハビリテーション①（廃用症候群、脳血管障害など） 3. 生活機能障害とリハビリテーション②（嚥下障害、脊髄損傷など） 【基礎となる機能評価と機能訓練：4時間】 1. 演習：ROM・MMTの目的、測定方法、実技 2. 演習：脳血管障害患者のADL（片麻痺患者の身体特徴、ポジショニング） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義・演習						
履修上の助言	各疾患の病態理解、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学（特に骨・関節・筋肉・脳・神経）の復習を必ず行ったうえで講義に臨んでください。また、看護技術論・看護方法論などの科目と関連があります。復習をして講義に臨んでください。						
テキスト参考書	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 看護がみえる Vol. 3 リハビリテーション看護	運動器 脳・神経 病態生理 フィジカルアセスメント 障害をもつ人の可能性とともに歩む	医学書院 医学書院 医学書院 メディックメディア 南江堂				
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅲ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	内分泌・代謝疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。						
到達 目標	・ 内分泌・代謝疾患の病態生理と検査・診断・治療について理解する。 ・ 知識を看護アセスメントに活用する。						
授業 計画	1. 内分泌・代謝機能の構造と機能 2. 症状と病態生理、検査 3. 内分泌疾患の診断と治療 4. 代謝疾患の診断と治療 ① 5. 代謝疾患の診断と治療 ② 6. 代謝疾患の診断と治療 ③ 7. 代謝疾患の診断と治療 ④ 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
方法 教育	講義						
履修 上の 助言	各疾患の病態生理、検査、治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学の復習を必ず行ったうえで講義に臨み、知識の習得に励んでください。						
参考 図書	系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院						
評価 方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅳ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期
目 的	免疫機能、血液・造血機能、感覚器疾患の診断・治療について理解し、看護に活かす。						
到達 目標	・免疫のしくみとアレルギーについて説明する。 ・主な免疫機能障害における治療・検査・処置について説明する。 ・血液の生理と造血のしくみについて説明する。 ・主な血液・造血器の疾患における治療・検査・処置について説明する。 ・主な感覚器疾患の病態生理と検査・診断・治療について説明する。						
授 業 計 画	【免疫機能の障害：8時間】 1. 免疫のしくみとアレルギーのしくみ 2. 検査(皮膚生検、アレルギーテスト)と治療(安静、薬物治療(ステロイド)、理学療法、食事療法) 3-4. 症状と疾患の理解 アレルギー：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシーの定義と分類、食物アレルギーなど 自己免疫疾患：先天性免疫不全症、後天性免疫不全症、関節リウマチ・関節炎、 全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、ベーチェット病など 【血液・造血器：8時間】 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 検査・診断・病態生理 3. 造血器腫瘍治療の基本概念、その他 4. 再生不良性貧血、白血病など 【感覚器：計 12 時間】 《眼：2 時間》 1. 眼の解剖生理、眼科疾患の患者の特性、眼科疾患と看護、 眼科疾患各論（白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、黄斑変性症など） 《皮膚：4 時間》 1. 皮膚の解剖生理 2. 皮膚疾患各論（表在性皮膚疾患、白癬、疥癬、熱傷、腫瘍など） 《耳鼻咽喉：4 時間》 1. 耳鼻咽喉の解剖生理 2. 耳鼻咽喉疾患各論（中耳炎、アデノイド、突発性難聴、メニエール病、アレルギー性鼻炎、 副鼻腔炎咽頭炎、扁桃炎、咽頭がん、声帯ポリープ、喉頭がんなど） 《口腔：2 時間》 1. 口腔の解剖生理、口腔疾患各論（口内炎、舌炎、口腔カンジダ症、ベーチェット病、 ヘルパンギーナ、手足口病、口腔がんなど） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教 育 方 法	講義						
の 履 修 助 言	各看護学につながる学習です。 病態生理・検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学（血液の働き）・微生物（感染症）の復習をして講義に臨んでください。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座	アレルギー	膠原病	感染症	医学書院		
	系統看護学講座	血液・造血器			医学書院		
	系統看護学講座	眼			医学書院		
	系統看護学講座	皮膚			医学書院		
	系統看護学講座	耳鼻咽喉			医学書院		
	系統看護学講座	歯・口腔			医学書院		
	【参考書】						
	系統看護学講座	病態生理			医学書院		
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅴ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	全期
目的	腎・水・電解質、酸塩基平衡異常・泌尿器、生殖器・乳房に疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎知識を学び、診断、治療について理解し看護に活かす。						
到達 目 標	【腎・水・電解質、酸塩基平衡異常・泌尿器】 ・腎・泌尿器の構造、機能について説明する。 ・排泄機能の障害と検査・治療について説明する。 ・体液調節機能の障害と検査・治療について説明する。 ・全身性疾患と腎障害の関連性について説明する。 ・男性生殖器機能の障害と検査・治療について説明する。 【生殖機能障害・乳房】 ・女性生殖器の構造、機能について説明する。 ・女性生殖器機能の障害と検査・治療について説明する。 ・乳房に発生する疾患の病態・検査・治療について説明する。						
授 業 計 画	【腎・水・電解質、酸塩基平衡異常（10 時間）】 1. 腎臓の構造と機能 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解と治療①（腎不全－透析療法を含む） 4. 疾患の理解と治療②（原発性糸球体腎炎） 5. 疾患の理解と治療③（全身疾患による腎障害、水・電解質異常） 【泌尿器（8 時間）】 1. 泌尿器・男性生殖器の構造と機能、 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解と治療①（尿路・性器の感染症、腫瘍・通過障害など） 4. 疾患の理解と治療②（男性不妊症・男性性機能障害） 【生殖機能障害（8 時間）】 1. 女性生殖器の構造と機能 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解と治療①（良性腫瘍・悪性腫瘍、子宮内膜症） 4. 疾患の理解と治療②（不妊症・不育症） 【乳房（2 時間）】 1. 乳房の構造と機能、検査・診断・治療・処置 疾患の理解と治療（乳腺悪性疾患、乳腺良性腫瘍性疾患、その他の乳腺疾患について） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教 育 方 法	講義						
履 修 上 の 助 言	看護技術論や看護方法論につながる学習です。 各疾患の病態を理解し、検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。 解剖生理学（内分泌、腎・泌尿器、女性生殖器）の復習を必ず行っただうえで講義に臨み、知識の修得に励んでください。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座	腎・泌尿器	医学書院				
	系統看護学講座	女性生殖器	医学書院				
	【テキスト】						
	系統看護学講座	病態生理学	医学書院				
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅵ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	・小児に多い疾患および小児各期特有の疾患の病態、診断、治療、予後について学習し、実習に応用できるようにする。 ・小児の成長発達の状況をふまえて、病態の成因、徴候、経過および治療検査と関連づけて理解し、小児の発達に伴う回復過程を学習する。 ・現在の社会や家族の問題が子どもの健康に及ぼす影響を理解し、子どもと家族に対する医療的側面の支援について学ぶ。						
到達目標	・生体機能に影響をおよぼす要因を理解し、異常や障害が起こるメカニズムを説明する。 ・主要疾患の病因、病態、検査、治療を説明する。 ・患児の自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識を説明する。 ・小児の健診・予防接種や小児を取り巻く医療の現状について説明する。						
授業計画	1. 小児科の領域と特徴、乳児検診と予防接種、小児救急・小児保健・医療の現状と問題点 2. 小児症候学・治療学総論 3. 出生前、新生児の疾患と治療： - 循環器疾患と治療（心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・ファロー四徴症など） 4. 呼吸器疾患と治療（急性扁桃炎・急性気管支炎・ウイルス性肺炎など） - 免疫・アレルギー性疾患と治療（喘息・食物アレルギー・血管性紫斑病・川崎病など） 5. 消化器疾患と治療（先天性食道閉鎖症・ヒルシュスプルング病・胆道閉鎖症など） - 血液腫瘍疾患と治療（白血病・血友病・神経芽腫・ウィルムス腫瘍など） 6. 代謝・内分泌疾患と治療（成長障害・糖尿病など） - 腎泌尿器系疾患と治療（ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎など） 7. 神経疾患と治療（痙攣・髄膜炎・脳性麻痺・水頭症など） - 運動器疾患と治療（先天性股関節脱臼・ペルテス病・先天性内反など） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義						
履修上の助言	小児看護学総論で学習した成長・発達についての理解が大切です。 復習したうえで授業に臨みましょう。						
参考文献	系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅶ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	周産期にある女性と胎児および早期新生児期に生じる健康障害とその回復に向けて、経過の異常や疾病の診断と治療について学ぶ。						
到達目標	・妊娠期の異常とハイリスク妊娠における疾患の診断、治療について説明する。 ・分娩期における異常や疾患の診断、治療について説明する。 ・産褥期に生じる異常の診断、治療について説明する。 ・早期新生児期に生じる異常の診断、治療について説明する。						
授業計画	1. 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群（子癇・HELLP 症候群含む）、糖尿病・妊娠糖尿病 2. 多胎妊娠、流産・早産、骨盤位、胎盤の異常：前置胎盤・常位胎盤早期剥離、羊水の異常：羊水過多・羊水過少・羊水混濁、前期破水 3. 児頭骨盤不均衡、回旋異常、陣痛の異常：微弱陣痛・過強陣痛 4. 母体損傷、産科異常出血、産科ショック 5. 産科処置（分娩誘発、吸引分娩・鉗子分娩）、産科手術と麻酔（帝王切開術） 6. 産褥期における異常：乳房トラブル 7. 新生児仮死、低出生体重児、新生児の高ビリルビン血症 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義						
履修上の助言	女性生殖器・乳房及び胎児循環の解剖生理を、必ず復習した上で授業に臨んでください。母性看護方法論Ⅰ・Ⅱと関係の深い科目です。妊娠の生理、分娩の機序、産褥期の進行性変化や生活、新生児の呼吸・循環・体温、生理的黄疸等のメカニズムを自己学習し、履修することを勧めます。						
テキスト 参考書	テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 参考書 母性看護学〈2〉周産期各論 医歯薬出版 病気が見える Vol.10 産科 メディックメディア						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	病態治療論Ⅷ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	精神に障害を持つ人へ関わるための基礎知識として、精神障害の病理、病態、分類、症状、診断および検査、治療について理解し、看護に活用する。						
到達目標	・脳の構造と認知機能について理解する。 ・認知機能の神経基盤について理解する。 ・精神科的診察方法と精神疾患／障害の診断基準を理解する。 ・主な精神疾患／障害の症状について理解する。 ・主な精神疾患／障害の治療について理解する。						
授業計画	1. 精神症状論と状態像：症状とはなにか、さまざまな精神症状 2. 精神科的診察（診察、一般検査・画像検査・心理検査）、精神疾患／障害の診断基準・分類 病因論的分類・DSM・ICD・ICF） 3-6. 主な精神疾患／障害 （1）統合失調症 （2）気分障害「双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群」 （3）神経症状障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 （恐怖症性不安障害、強迫性障害、適応障害、解離性障害） （4）生理的障害および身体主要因に関連した行動症候群 （摂食障害、睡眠障害、性機能不全・性同一性障害） （5）パーソナリティ障害、器質性精神障害「神経認知障害群」 （6）精神作用物質使用による精神および行動の障害 （7）てんかん、神経発達障害群、心身症 7. 精神疾患の主な治療法 （薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
授業方法	講義						
履の助言	授業には積極的に参加し、疑問に感じたことは自分で調べ、考える習慣をつけてほしい。病態生理・検査・治療を学習し、対象に必要な看護に活用してください。						
テキスト参考書	系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	総合治療論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	2 年	前期
目的	治療・処置、検査を受ける患者の看護実践のために、主な治療法（手術療法、麻酔療法、放射線療法）とその治療法が生体に及ぼす影響について学ぶ。また、臨床検査の意義と解釈、検体検査、生体検査などについて学ぶ。						
到達目標	【手術療法】・外科的治療の種類と特徴を述べる。 ・低侵襲手術の種類と特徴を述べる。 ・手術が生体に与える影響と生体反応のメカニズムを説明する。 ・ドレナージの目的と管理について説明する。 ・術後の創傷治癒過程と創傷の阻害・促進因子を説明する。 ・手術で起こりうる一般的な合併症の成り立ちと予防方法を説明する。 【麻酔療法】・麻酔の種類と特徴を述べる。 ・麻酔（全身麻酔・脊髄麻酔・硬膜外麻酔）による合併症について説明する。 【放射線療法】 ・画像診断〔X線診断（X線撮影、血管造影など）、核医学診断（シンチグラフィ、PET など）、コンピューター断層撮影診断（CT、MRI など）〕の特徴を述べる。 ・放射線治療の有害反応について説明する。 【臨床検査】・基本的検査の必要性和検査項目が示す意味を理解する。						
授業計画	【手術療法：10 時間】 1. 手術療法、手術侵襲と生体反応 2. 炎症、外傷、腫瘍、敗血症、ショック 3. 体液栄養管理（主に術後）、ドレナージ 4. 術後合併症① 5. 術後合併症② 【麻酔療法：8 時間】 1-2. 麻酔の種類、麻酔による生体侵襲と合併症、疼痛管理 3. 酸素療法と機械的人工換気、体液、酸・塩基平衡、輸液管理（輸血療法を含む） 4. インフォームドコンセント、小児の麻酔、高齢者の麻酔 【放射線療法：6 時間】 1. 画像診断（検査方法、基本的な診断方法、特徴的な画像の見方など） 2-3. 放射線治療：定位放射線照射・粒子線治療・小線源治療、核医学治療など治療の侵襲、有害反応、宿酔症状、放射線障害と防護 【臨床検査：4 時間】 1. 臨床検査の概要（目的、手順、検体採取、検査による危険とその防止策など） 2. 主な臨床検査 検体検査（血液、尿、便検査など）、生理機能検査（心電図、呼吸機能検査、超音波検査など） 15. 学習時間あり・単位認定試験						
教育方法	講義						
の 履 修 上	解剖生理・薬理学・病態治療論・看護技術論Ⅳ（バイタルサインなどの基礎的な観察技術）看護技術論Ⅴ（創傷管理）と関連があり、成人看護方法論Ⅴ（周手術期）の基礎知識となります。						
テ キ ス ト 参 考 書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 【参考書】 周手術期の臨床判断を磨く 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	総合保健医療論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	後期
目的	・ 医療をとりまく現在の社会状況を学ぶ。 ・ 医療や福祉における政策や制度の動向を学ぶ。 ・ 患者の権利について学ぶ。 ・ 現代の日本の保健医療体系を過去および諸外国との比較から据える。						
到達目標	・ 医療をとりまく現在の社会状況が理解できる。 ・ 医療や福祉における政策や制度の動向が理解できる。 ・ 患者の権利を擁護する方法がわかる。 ・ 現代の日本の保健医療体系がわかる。						
授業計画	1. 健康と疾病 2. 生活習慣病 3. 医療と人口動態 4. 医療供給体制 5. 医療保障と高齢者福祉 6. 医療における倫理（インフォームドコンセントなど） 7. 現代医療の諸問題 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義						
履修上の助言	復習を必ず行ってください。						
テキスト 参考書	テキスト 系統看護学講座 総合医療論 医学書院 参考書 国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	公衆衛生学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	前期
目的	看護師を志すものとして「健康」とは何かを理解し、予防医学の重要性や、健康的に生活していくために必要な知識として生活環境及び生活習慣と病気の関係、環境汚染物質などの成 因・汚染防止・汚染除去などに関する基礎知識やそれに付随した法令などを理解し、習得を目 指す。						
到達 目標	・「健康」「予防医学の概念」について理解できる。 ・さまざまな環境と付随した法令について理解できる。 ・感染症の要因とその予防について理解できる。 ・疫学について理解できる。						
授 業 計 画	1. 公衆衛生学の歴史と定義・健康の概念・疾病予防と健康管理 2. 健康と環境 3. 健康指標 人口動態と動態 4. 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査 5. 地域保健活動・社会保健福祉 6. 感染症・食中毒予防・食品衛生 7. 疫学 危険度・疫学の方法 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育 方法	講義						
履 修 上 の 助 言	復習を必ず行ってください。						
テ キ ス ト 参 考 書	授業資料をプリントとして配布						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	地域包括ケア システム論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	1 年	前期
目 的	日本は超高齢社会を迎え、医療・看護は、病院完結型から地域完結型へ移行した。そのため地域包括ケアの概念と様々なライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援の在り方、サービス提供のシステムを学ぶ必要がある。医療施設だけでなく、地域で生活する人々を支援する多職種の役割も学び、地域包括ケアシステム全体の理解を深め、保健・医療・福祉における看護師の視点や支援の在り方を学ぶ。						
到達 目標	・地域包括ケアシステムの基本的な考え方を説明する。 ・地域包括ケアシステムの構築のプロセスを理解する。 ・地域での生活支援のための介護保険、福祉サービスについて説明する。 ・地域包括支援センターの役割を知る ・地域における保健・医療・福祉の連携の大切さを述べる。 ・地域包括ケアシステムにおける看護師の在り方について述べる。 ・退院時における多職種連携の必要性を説明する						
授 業 計 画	1-2. 地域包括ケアシステム 3-4. 地域で生活支援するための社会資源（介護保険、障害者総合支援法などの活用） 5. 地域包括支援センター 6. 保健・医療・福祉に関連する職種と連携の必要性 7. 包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携 入院、退院調整と支援に向けた取り組みと看護師の役割 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育 方法	講義・協同学習						
履 修 上 の 助 言	生活者の理解とソーシャルマナーの講義を復習しておいてください。 また、身近な生活地域の取り組みについて興味・関心を持っておきましょう。						
テ キ ス ト 参 考 書	ナーシング・グラフィカ在宅看護論（1）：地域療養を支えるケア 医療福祉サービスガイドブック MC メディカ出版 医学書院						
評 価 方 法	筆記試験 レポート（学習課題）						

学科目 (単元)	地域保健学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目 的	少子高齢化社会における地域住民の保健医療福祉ニーズは多様化している。このような社会情勢をふまえ、地域で生活する人々の健康課題を解決するための公衆衛生看護活動（地域看護活動）について理解する。具体的な都道府県・市町村における活動を通して、健康を維持するための行政の看護職の役割、地域の関係機関との連携、住民の主体的活動及び地域包括ケアシステムについて学ぶ。						
到達 目標	1. 地域保健活動の概要を理解し、その対象、活動の場も含め具体的な内容を通して、看護職の役割について説明できる。 2. 地域看護を取り巻く保健・医療・福祉の連携について理解し、地域包括ケアシステム構築のための看護職の役割について説明できる。 3. 高齢化社会を支える介護保険制度理解を深め、この制度の活用について説明することができる。						
授 業 計 画	1. 地域保健活動の概要：理念・歴史・健康課題・法律 2. 地域看護活動の方法 地域・在宅・における看護活動の場、主に地域行政機関における看護活動（都道府県、市町村における地域看護活動、母子保健対策） 3. 地域の看護活動：介護保険、地域包括ケアシステム（地域包括支援センター含む） 退院支援、在宅支援、さまざまな機関、職種との連携と調整（訪問看護ステーション等） 4. 地域の看護活動の実際 都道府県における難病・小児慢性疾患患者支援（主に保健所における活動） 事例をととした本人・家族支援の検討、グループワーク 5. 地域の保健医療福祉計画：生涯を通じた健康づくり（主に生活習慣病予防・高齢者対策）、 地区組織活動 6. 地域の看護活動の実際：精神保健対策、職域・学校における地域看護活動 7. 感染症を含む健康危機管理：結核・エイズを含む感染症対策、災害時看護 8. 単位認定試験						
教 育 方 法	講義 グループワーク						
履 の 修 助 言	グループワークへの積極的参加 新聞・メディアで取り上げられている健康問題について関心を深める						
テ 参 考 書 ト	Essentials 地域看護学 医歯薬出版株式会社 国民衛生の動向 （前年度購入分）						
評 価 方 法	筆記試験						

学科目 (単元)	保健行動科学	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	前期
目的	・行動科学は、社会学、心理学、自然科学等学際的見地から人々の行動を包括的に理解し、介入していく学問で、様々な領域で実践的に活用されています。保健医療の領域においても、その方より健康な状態が獲得されるために、不健康な行動を改善に導く支援が、理論に基づき実践されています。 ・本科目では、生活習慣病等を取り上げながら、看護師として健康行動を見直す必要性のある人々にどうアプローチしていくのか、基礎理論の学習や演習を通して学びます。						
到達目標	・健康の各段階にある人々の保健行動について理解を深める。 ・主な保健行動変容理論について理解する。 ・事例や体験を通して各理論の活用方法を理解する。 ・行動変容を促す看護について考えることができる。						
授業計画	1. 保健行動と心理的・社会的背景 ～生活習慣病を中心に～ 2. 保健行動モデルの諸理論 3. 保健行動モデルの諸理論 4. 行動変容支援技法 5. 行動変容支援技法 6. 行動変容支援技法 7. 行動変容を促す看護について（まとめ） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義、体験学習						
履修上の助言	人々が行動変容に至るまでの過程を支援できるように、理論を着実に学んでください。 本科目は看護技術論XI、成人看護学総論、成人看護方法論IVと関連しています。 関連科目の知識を反映させながら学習を進めてください。						
テキスト・参考書	行動変容を促す看護 ナース・グラフィカ 医学書院 成人看護学概論 メディカ出版						
評価方法	筆記試験 100%						

学科目 (単元)	社会福祉活動論	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	2 年	後期
目的	・社会福祉・社会保障制度の概要と理念について学ぶ。社会保障制度改革の方向性について、海外との比較を通して、理解する。 ・地域福祉活動の実践について、事例を通して検討を行なう。						
到達目標	・学生が自らの言葉で、社会福祉制度の各領域（老人、児童、障害、貧困、地域）の内容について、わかりやすく説明する。 ・学生が自らの言葉で、社会福祉と医療の相互連携について、わかりやすく説明する。 ・学生が自らの言葉で、社会福祉活動の必要性について、わかりやすく説明する。						
授業計画	1. 社会福祉・社会保障制度 2. 社会福祉と家族・ライフサイクル 3. 社会福祉諸法 4. 社会保険と社会手当 5. 地域福祉の目的と理念 6. 地域福祉計画と活動 7. 権利擁護と虐待対応 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	通常は講義形式で行うほか、グループワークを実施する予定である。 講義終了時にコメントシートの提出を求めることがある。						
履修上の助言	授業を受ける前に、あらかじめテキストの指定箇所を読んでおくこと。 社会福祉に関するニュースについて、日ごろから関心を持つこと。						
テキスト 参考書	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院						
評価方法	筆記試験						

学科目 (単元)	看護関係法令	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	3 年	前期
目的	この科目では、看護師としての業務を行うために必要な法律を勉強します。法律の勉強と聞くだけで、「難しくて、きらいだ!」と感じる人もたくさんいるでしょう。しかし、それぞれの法律の成り立ちや各法律の目的を知ること、少しずつ興味を持てるようになります。 ここで学修する関係法令は、患者さんが安心して診療を受けるためのものであると同時に、看護師として医療に携わる皆さん自身を守るものでもあります。国家試験に出題される内容もたくさん含まれますが、自分の将来のために学修するという目的を持って取り組んでください。						
到達目標	・法の概念と看護法を詳しく説明する。 ・医事法について詳しく説明する。 ・保健衛生関係法規の概要について説明する。 ・薬事関係法規の概要について説明する。 ・労働関連法規の概略を説明する。 ・法に規定された医療安全の取り組みについて説明する。 ・その他、社会的に重要で医療とかわる法制度について幅広く説明する。						
授業計画	1. 法の概念、保健師助産師看護師法、人材確保法 2. 医療法、健康増進法、地域保健法 3. 感染症法、予防接種法、がん対策基本法等、労働関連法規 4. 医療安全と法的責任、その他：医療とかわる法制度 5. 薬事関連法規、母子保健法、母体保護法 6. 学校保健安全法、労働安全衛生法、労働関連法規 7. 難病患者医療法、児童福祉法、児童虐待防止法等 医療安全と法的責任（含、廃棄物処理法） 8. 単位認定試験（学習時間なし）						
教育方法	講義を中心に進めていきますが、一方通行を避けるために、学生への問いかけも行います。						
履修上の助言	法律は、社会の要請で成立、改正されていくものです。そのため、世の中の動きを学修することが法律を学ぶことに直結します。テレビやネットでニュースを見ることが大切です。社会問題を他人事と思わず、自分にも必ず関わりのある問題だと認識することの大切です。						
テキスト 参考書	オリジナルの配布プリント 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院						
評価方法	講義終了時筆記試験（知識度）、講義中の発言（関心度）						